

解 禁

ラジオ・テレビ・インターネット

8月27日（水）17時以降

新 聞 8月28日（木）朝刊以降

令和7年8月19日

生涯学習・文化財課

担当 鹿間・松本

(内線 5346)

直通 087-832-3786

県指定有形文化財（絵画）の指定について

香川県文化財保護審議会（会長 ^{えべす ひかる} 胡 光）は、令和7年8月5日（火）に開催した同審議会の審議・議決を経て、県指定有形文化財（絵画）2件の指定について、香川県教育委員会に対し、指定は適当であるとの答申を行いました。

今後、今月に開催される県教育委員会8月定例会での審議・議決を経て、指定される見込みですのでお知らせします。

記

1 県指定文化財の指定

区分	名称及び員数	所有者	所在地
有形文化財 （絵画）	金刀比羅宮所蔵 ^{たかはし ゆいち} 高橋由一筆油彩画群 27 面	宗教法人 金刀比羅宮	琴平町
有形文化財 （絵画）	^{わたしぶね} 渡 舟 ^{こばやしまんご} 小林萬吾筆 1 面	香川県	高松市

2 指定される文化財の概要

（1）金刀比羅宮所蔵 高橋由一筆油彩画群（詳細は別紙1のとおり）

○高橋由一と香川県の関わり

高橋由一（1828-1894）は、江戸時代から明治前期の絵画史において油彩画技法を含む西洋絵画技法の受容と普及に大きな役割を果たした近代洋画の先駆者である。本県とは金刀比羅宮との関係を基軸に関りが深く、由一は明治12年（1879）の琴平山博覧会に作品を出品するなどした。本作品群は、琴平山博覧会の出展作品などの奉納作品、金刀比羅宮からの依頼作品、高橋由一以外の人から奉納・再奉納された作品などで構成されている。なかでも金刀比羅宮を中心に琴平山（象頭山）を描く「琴平山遠望」、肖像画「琴陵宥常像」（後の宮司）は、金刀比羅宮からの依頼によって当地で描き、明治14年（1881）に奉納された本県との関わりが特に深い作品となる。

○香川県の近代絵画史の端緒

明治12年の琴平山博覧会における本作品群18点を含む高橋由一作品の公開は、新たな作画技術である油彩画を多くの県民が見る機会となった。そして、香川県出身の洋画家・小林萬吾などの後進を輩出する契機ともなっており、本県の近代絵画史の端緒となる画期的かつ象徴的な作品群としてその価値は高い。

(2) 渡舟 小林萬吾筆（詳細は別紙2のとおり）

○香川県出身の洋画家・小林萬吾

小林萬吾（1868-1947）は、讃岐国三野郡詫間村（現香川県三豊市詫間町）出身の洋画家。文部省の命によりヨーロッパに留学したほか、文部省美術展覧会（文展、後に帝国美術院展覧会、新文展、日本美術展覧会と続く）に出品し受賞を重ねるなど、中央画壇での評価を確立するとともに、東京美術学校や画塾・同舟舎にて多くの後進を育成した。また、在京の香川県出身画家らと銀濤社を結成し郷土出身の芸術家を支援したほか、香川県の美術振興のため昭和9年（1934）に始まる香川県美術展覧会の創設にも尽力するなど、本県における美術の普及発展に多大な影響を与えた。

○時代を反映

明治後期の洋画界においては、風景画に人物群を配置して抽象的な概念をあらわすことが課題であったが、本作品では乗合船に乘る様々な人物を描き、多様な性格・境遇の人が乗り合わせる「人事趣味」(*)を表現する。入念な描き込みがみられる画面づくりや色彩の工夫など、日本の初期洋画にある写実性と、黒田清輝によって日本にもたらされた外光表現を融合させ、新たな表現として制作した画期的な作品である。本作品は、明治42年（1909）の第三回文部省美術展覧会三等賞を受賞するなど、当時から高い評価を受けており、本県の近代絵画史における先駆的な業績を示すものとして価値が高い。

(*) 小林萬吾は本作品について、「乗合舟という意味でいろいろな性格やら境遇やらを寄せ集めた人事趣味を拵えよう」と述べた。（「作家の談 渡舟」『美術新報』9巻1号 1909年）

3 県指定有形文化財の件数

【現 状】有形文化財	124件（内、絵画 20件）
県指定文化財	226件
【指定後】有形文化財	126件（内、絵画 22件）
県指定文化財	228件

4 文化財の写真

配布したCD画像を使用する場合はクレジット表記をお願いします。

- ・「金刀比羅宮所蔵 高橋由一筆油彩画群」：金刀比羅宮蔵
- ・「渡舟 小林萬吾筆」：香川県立ミュージアム蔵（画像提供：香川県立ミュージアム）

※なお、本画像は、今回限りでのご利用をお願いします。

5 その他

(1) 「金刀比羅宮所蔵 高橋由一筆油彩画群」の報道関係者向け公開

日時：8月21日（木）13：30～14：30

場所：金刀比羅宮 高橋由一館（香川県仲多度郡琴平町）

取材希望の方は、社名、車台数、お名前（代表の方のみ）、メールアドレスを明記のうえ、下記までお申し込みください。

申込先：金刀比羅宮学芸課 gakuhei@konpira.or.jp（担当：森下、綾、東上）

(2) 特別公開

①「金刀比羅宮所蔵 高橋由一筆油彩画群」

日程：8月28日（木）～10月31日（金） 会期中無休、入館料無料

場所：金刀比羅宮 高橋由一館（香川県仲多度郡琴平町）

②「渡舟 小林萬吾筆」

香川県立ミュージアムでの特別公開を令和8年2月下旬から3月上旬の間で予定しております。今後、詳細が決まり次第、改めて御案内いたします。

指定文化財の概要

別紙 1

種 別	有形文化財（絵画）
名称及び員数	金刀比羅宮所蔵 高橋由一筆油彩画群 27 面
所在の場所	仲多度郡琴平町 892-1 （金刀比羅宮博物館 高橋由一館内）
所有者の 氏名及び住所	宗教法人 金刀比羅宮 （仲多度郡琴平町 892-1）
法 量	別添表による
品質形状	別添表による
作 者	高橋 由一
年 代	別添表による
指定理由	高橋由一（1828-1894）は、我が国の近代洋画の先駆者とされ、「花魁」や「鮭」は油彩技術の習熟の先駆性と写実性の高さが評価され、重要文化財に指定されている。金刀比羅宮との関係を基軸として本県との関わりも深く、金刀比羅宮には、同人が奉納した琴平山博覧会の出展作品 18 点、明治 13 年（1880）の奉納作品 2 点、依頼作品 4 点に加え、同人以外の人から奉納・再奉納された博覧会後に流出した作品など 27 点が一括所蔵されている。静物画 10 点、風景画 16 点、肖像画 1 点で構成され、明治 7～14 年（1874～1881）の制作である。写実性が高く、油彩ならではの質感表現を示す静物画の代表作「豆腐」、「なまり」、「巻布」、「鱈梅花」、江戸期からの名所を西洋的な遠近法を用いて描いた風景画「二見ヶ浦」、「浅草遠望」、「本牧海岸」がある。また、金刀比羅宮からの依頼によって当地で描き、明治 14 年に奉納した、金刀比羅宮を中心に琴平山（象頭山）を描く「琴平山遠望」、肖像画「琴陵宥常像」（後の宮司）といった本県との関わりが深い油彩画も含まれる。 金刀比羅宮が、組織や社格を整えるなど、従来の仏教系の金毘羅権現信仰の対象から神社として生まれ変わりを果たした明治期にあつて、油彩画技法という新しい作画技術による絵画の奉納はその歴史特性に合致し、本作品群はそれを象徴する。さらに、琴平山博覧会を契機に、新たな作画技術である油彩画が明治 12 年（1879）という全国的に見ても早い時期に県民に公開された事例でもあり、本県で近代絵画が定着し、小林萬吾などの後進を輩出する契機となった画期的な作品群でもある。 以上、時代の転機において奉納された作品が主体となり、本県の近代絵画史の端緒となる画期的かつ象徴的な作品群であることから、その価値は高いものとして、一群として文化財指定を行い、保護を図るものとする。
指定基準	有形文化財 絵画・彫刻の部 1 各時代の遺品のうち製作優秀で本県の文化史上貴重なもの 2 本県の絵画・彫刻史上特に意義のある資料となるもの

金刀比羅宮所蔵 高橋由一筆油彩画群 一覧

番号	名称	年代	品質	形状	法量	
					縦(cm)	横(cm)
1	ふたみがうら 二見ヶ浦	明治 11 年	油彩、麻布	額装	51.8	115.3
2	かいず 貝図	明治 11 年	油彩、麻布	額装（小襖 四面）	各 32	各 86.5
3	まきぬの 巻布	明治 8～9 年	油彩、麻布	額装	36.3	48.2
4	さかん 左官	明治 8～9 年	油彩、麻布	額装	33.4	44.1
5	とうふ 豆腐	明治 10 年	油彩、麻布	額装	32.8	45.2
6	ぼくていおうか 墨堤桜花	明治 10 年	油彩、麻布	額装	66.3	119.5
7	なまり	明治 10 年	油彩、麻布	額装	41.4	54.8
8	たらばいか 鱈梅花	明治 10 年	油彩、麻布	額装	54.8	75.8
9	ひやくまんとう がいしゅうず 百万塔と鎧袖図 (鎧袖塔)	明治 10 年	油彩、麻布	額装	45.4	75.4
10	たごのふじ 田子富士	明治 10～11 年	油彩、麻布	額装	40.2	48
11	すきき 洲崎	明治 11 年	油彩、麻布	額装	51.6	115
12	まきがはらぼうかく 牧ヶ原望嶽	明治 11 年	油彩、麻布	額装	51.5	115.1
13	おくじょうのつき 屋上月	明治 11 年	油彩、麻布	額装	33.3	46.7
14	ひうちぐ 燧具	明治 11 年	油彩、紙	額装	45.2	66.6
15	すみだづつみ ゆき ぼくていせつ 墨田堤の雪（墨堤雪）	明治 9 年	油彩、麻布	額装	44	73.5
16	ほんもくかいがん 本牧海岸	明治 10 年	油彩、麻布	額装	60.6	121.2
17	しばうらせきよう 芝浦夕陽	明治 10 年	油彩、麻布	額装	66	120.5
18	あたごぼうかく 愛宕望嶽	明治 10～11 年	油彩、麻布	額装	65	121
19	あさくさえんぼう せきや さと 浅草遠望（関屋の里）	明治 11 年	油彩、麻布	額装	39.9	48.3
20	たい かいぎょず 鯛（海魚図）	明治 12 年	油彩、麻布	額装	45	60.2
21	おうかず 桜花図	明治 12 年	油彩、麻布	額装	51.4	63.9
22	ことひらさんえんぼう 琴平山遠望	明治 14 年	油彩、綿布 を貼った板	額装	61	141.5
23	ことおかひろつねぞう 琴陵宥常像	明治 14 年	油彩、麻布	額装	64.4	56.8
24	げっかすみだがわ 月下隅田川	明治 13～14 年	油彩、麻布	額装（小襖 二面）	各 23.6	各 66.2
25	えのしまず えのしまぜんけい 江之島図（江島全景）	明治 11～13 年	油彩、紙	額装	47.2	161.5
26	かいがん えのしまこぶち 海岸（江島児淵）	明治 9～10 年	油彩、麻布	額装	33.4	45.5
27	とくほん そうし 読本と草紙	明治 7～8 年	油彩、麻布	額装	39	54

- 1・2 明治 11 年の奉納作品
 1・3～19 琴平山博覧会出展作品
 20・21 明治 13 年の奉納作品
 2・22～24 依頼作品
 25～27 高橋由一以外の人から奉納・再奉納

金刀比羅宮所蔵 高橋由一筆油彩画群 画像



1 二見ヶ浦



2 貝図



3 巻布



4 左官



5 豆腐



6 墨堤桜花



7 なまり



8 鱒梅花



9 百万塔と鎧袖図（鎧袖塔）



10 田子富士



11 洲崎



12 牧ヶ原望嶽



13 屋上月



14 燧具



15 墨田堤の雪（墨堤雪）



16 本牧海岸



17 芝浦夕陽



18 愛宕望嶽



19 浅草遠望（関屋の里）



20 鯛（海魚図）



21 桜花図



22 琴平山遠望



23 琴陵宥常像



24 月下隅田川



25 江之島図（江之島全景）



26 海岸（江島児淵）



27 読本と草紙

指定文化財の概要

別紙 2

種 別	有形文化財（絵画）
名称及び員数	渡舟 小林萬吾筆 1 面
所在の場所	高松市玉藻町 5 番 5 号（香川県立ミュージアム）
所有者の 氏名及び住所	香川県（高松市番町四丁目 1 番 10 号）
法 量	縦 1 5 5 . 0 c m 横 2 6 7 . 0 c m
品質形状	油彩、麻布、額装
作 者	小林 萬吾
年 代	明治時代 明治 42 年（1909）
指定理由	小林萬吾（1868-1947）は、讃岐国三野郡詫間村（現香川県三豊市詫間町）出身の洋画家。原田直次郎^{はらだなおじろう}に師事したのち、黒田清輝に弟子入りする。明治 29 年（1896）に黒田清輝らによって創立された白馬会に参加し、同年には東京美術学校西洋画科に入学する。明治 44 年（1911）から大正 3 年（1914）まで文部省の命によりヨーロッパに留学したほか、文部省美術展覧会（文展、後に帝国美術院展覧会、新文展、日本美術展覧会と続く）に出品し受賞を重ねるなど、中央画壇での評価を確立するとともに、東京美術学校（助教授、後に教授）や画塾・同舟舎では多くの後進を育成した。また、在京の香川県出身画家らと銀濤社を結成し郷土出身の芸術家を支援し、香川県の美術振興のため昭和 9 年（1934）に始まる香川県美術展覧会の創設にも尽力するなど、香川県における近代美術の定着や発展に多大な影響を与えた。 本作品は、実際に大工を呼んで舟の形を拵え、背景となる風景を求めて取手や二子玉川等へ写生に訪れるなど、その画業の中でも力を入れて描いたものである。明治後期の洋画界においては、風景画に人物群を配置して抽象的な概念をあらわすことが課題であったが、本作品では乗合船に乗る様々な人物を描き、多様な性格・境遇の人が乗り合わせる「人事趣味」を表現する。入念な描き込みがみられる画面づくりや色彩の工夫など、日本の初期洋画にある写実性と、黒田清輝によって日本にもたらされた外光表現を融合させ、新たな表現として制作した画期的な作品である。明治 42 年の第三回文部省美術展覧会三等賞を受賞するなど、当時から高い評価を受けている。 以上を踏まえ、本作品を、本県の近代絵画史における先駆的な業績を示すものとして文化財指定を行い、保護を図るものとする。
指定基準	有形文化財 絵画・彫刻の部 2 本県の絵画・彫刻史上特に意義のある資料となるもの



渡舟 小林萬吾筆 画像提供：香川県立ミュージアム

関係年表

[参考]

			高橋由一	小林萬吾	美術・社会のできごと
文政	11年	1828	下野国佐野藩士の子として江戸藩邸に生まれる		
文久	2年	1862	洋書調所画学局に入局 川上冬崖やワグマンの指導を受ける		
慶応/ 明治	4年/ 元年	1868		三豊郡詫間村に生まれる	
	4年	1871			岩倉使節団派遣、廢藩置県
	6年	1873	ウィーン万国博覧会に出品 日本橋に天絵楼を創設(のち、天絵社、 天絵学舎)		
	9年	1876	ファンタネージに学ぶ		工部美術学校開校(～1883)
	10年	1877	第1回内国勲業博 三等花紋褒賞		西南戦争
	11年	1878	パリ万博に作品を出品		
	12年	1879	琴平山博覧会に作品を出品		
	13年	1880	琴平に滞在(～1881)		
	14年	1881	山形県、宮城県下の記録風景画を製作 第2回内国勲業博覧会「江堤」妙技二等 賞		
	15年	1882		金刀比羅宮 旭照塾明道館(のち明道 学校)入学	(原田直次郎、天絵学舎に入 門)
	17年	1884	天絵社閉鎖 東北地方へ旅に出る		
	18年	1885		愛媛県第一中学校入学 図画教師・堀越喜三郎に出会う	
	21年	1888		上京、安藤仲太郎を訪ねる 原田直次郎に入門	(原田直次郎、鐘美館創設)
	22年	1889		原田直次郎の鐘美館へ入学	東京美術学校開校、明治美術 会結成(～1901)、大日本帝国 憲法発布
	26年	1893	洋画普及の功績により、銀盃下賜		
	27年	1894	逝去	第4回内国勲業博覧会秘書の命を受け る	天真道場(黒田清輝、久米桂一 郎)開設、日清戦争
	28年	1895		鐘美館閉校 博覧会で黒田と知遇を得る。 天真道場入門	裸体画論争、下関条約、三国干 渉
	29年	1896		東京美術学校西洋画科入学(1898年卒 業) 白馬会結成、創立に参加	東京美術学校西洋画科設置、 白馬会結成
	34年	1901		東京美術学校助教	
	35年	1902		このころ画塾「同舟舎」を開設	
	36年	1903		第5回内国勲業博覧会「門付」3等賞	
	37年	1904		東京美術学校助教	日露戦争(～1905)
	40年	1907		第1回文展「物思」3等賞	
	42年	1909		第3回文展「渡舟」3等賞	
	44年	1911		白馬会解散 ヨーロッパ留学(～1913)	
大正	3年	1913			第一次世界大戦(～1918)
	5年	1915		第9回文展「磯菜摘」3等賞	
	7年	1918		東京美術学校教授	シベリア出兵
昭和	7年	1932		在東京香川県人による美術団体「銀濤 社」を結成	
	9年	1934		香川県知事と懇談を重ね、第1回香川 県美術展覧会開催へ	
	12年	1937			日中戦争
	14年	1939		陸軍省より中国へ派遣	
	16年	1941		帝国芸術院会員に推挙される	太平洋戦争(～1945)
	18年	1943		疎開目的で詫間村等滞在(～1946)	
	19年	1944		東京美術学校教授依願退職、正四位 勲三等瑞宝章受章	
	20年	1945			終戦
	21年	1946		春 第1回日本美術展覧会(日展)審査 員	日本国憲法発布
	22年	1947		12月逝去	